福井・敦賀の空襲とそれを伝える取り組み

　　　　　　　　 　 　　　　　　　　 　木戸　聡（日本科学者会議福井支部）

1945年（昭和20），敦賀市は7月12日にB29編隊による焼夷弾投下，7月30日に艦載機攻撃，8月8日に模擬原爆投下という空襲を受けており，5月19日から6回にわたり敦賀湾に機雷投下を受けている．福井市は同年7月19日にB29編隊による焼夷弾ほか爆弾投下を受けている．これらの空襲に関する記録，空襲を伝える取り組みについて述べる．

１．空襲の記録

(1)福井市

　福井空襲については福井空襲史刊行会により1978年に「福井空襲史」が刊行されている．A5判1478ページに及ぶ内容である。戦後間もなく福井市役所に戦災史編纂室が設けられ，資料を集めていたが30年近く陽の目を見ずにいた．公式記録にみる福井空襲，報道著作にみる福井空襲，市民の福井空襲体験記，巻末に福井空襲犠牲者名簿や当時の住居明細図が載せられている．

　福井市史としては2004年に「通史編3　近現代」の第四章に，福井空襲と敗戦について4

ページ程度が記述されている．

(2)敦賀市

　敦賀市戦災復興史編纂委員会により1955年に「敦賀市戦災復興史」が刊行されている．戦後10年で行政としてどのような都市計画をして道路を整備し住宅を建設していったかなど復興の記録と戦後10年を迎えた現況が主であるが，戦災の記録にも450ページ中65ページを使っており，戦災犠牲者名・年齢・死骸場所も示されている．戦後10年でこのような戦災の記録が刊行されているのは珍しく，行政主導で作られているのも例が少ない．

　敦賀空襲を伝える会により1985年に「敦賀空襲・戦災史」が刊行されている．B5判446ページで当時の新聞記事，アメリカ側資料，市民の被災体験，戦災犠牲者名簿なども載せられている。

　敦賀市史としては1988年に「通史編　下巻」の第四章に10ページ程度が記述されている．

　敦賀市史刊行が完了したことにより，1989年にわかりやすく解説した「敦賀の歴史」変形四六判248ページを全戸配布している．敦賀空襲について5ページ記述されている．

(3)福井県史ほか

　福井県史では1988年に刊行された「資料編12上」で，福井新聞の記事1945年6月27日付「米軍機による若狭湾機雷投下」，同年7月14日付「敦賀空襲の報道」，同年7月21日付「福井空襲の報道」が載せられている．また，国立国会図書館の特別資料の訳文「米軍作戦任務報告書」を66ページ載せている．

　福井県史で1996年に刊行された「通史編6　近現代二」の第二章では，敦賀・福井空襲と敗戦に9ページ記述している．敦賀湾・小浜湾への機雷投下や1945年8月8日に東洋紡績敦賀工場に投下された大型爆弾が，原爆投下とその訓練のため編成された米軍第509混成群団による原爆模擬弾であったことも記述している．

　隼田嘉彦・笠松雅弘・末廣要和・木村亮により2000年に「福井県の百年」が刊行されている．敦賀・福井への空襲について11ページ記述されている．

　武生市史では1976年に刊行された「概説篇」に「武生にも焼夷弾」という項目で1945年8月2日に武生市宮谷・西尾地区に焼夷弾が投下され15世帯が火事になったことが記述されている．

　小浜市史では1998年に刊行された「通史編下巻」で小浜湾にも機雷投下があったことが記述されている．「敦賀空襲・戦災史」には，小浜湾で1945年6月26日に触雷した駆逐艦「榎」で26人の死者が出たことが記されている．加斗駅付近，三宅駅（現在の上中駅）付近で艦載機による機銃掃射があったことも記されている．敦賀や舞鶴に艦載機攻撃のあった7月30日と同日とされているが，艦載機は何度も来ていたという証言もある．

２．空襲を伝える福井市での取り組み

　前述の「福井空襲史」では，1975年に大阪大空襲展を見学したことが刊行の動機になったことが記されている。福井市民にも福井空襲史の刊行に協力してもらうように，「福井空襲展」を1975年7月16日～22日に福井市民福祉会館で開催した．

それ以前から福井空襲に関する展示や体験記に取り組んできたのが「ゆきのした文化協会」である．作家中野重治氏の妹の中野鈴子さんらの文芸活動を母体とし，1951年から会報「ゆきのした」を発行してきた．1965年には加藤忠夫氏らにより「福井空襲を伝える会」が立ち上げられ，空襲や戦争の体験記を会報「ゆきのした」に掲載してきた．1973年には第1回の「空襲資料展」を開催し，2日間で千人余の見学者があった．

東京大空襲を記録し伝える作家早乙女勝元氏らの活動により，「空襲・戦災を記録する会全国連絡会議」が作られ，第1回東京大会が開かれたのが1971年である．全国連絡会議は毎年会場を変えて夏に大会が行われ，ゆきのした文化協会が福井空襲に関する団体として参加してきた．1987年の第17回大会と2002年の第32回大会は福井市で開催され，ゆきのした文化協会がその運営をしてきた．2002年の第32回大会では福井大会記念特別リポートとして,「平和文化資料館ゆきのしたからのリポート」が荒川勝巳氏と田島伸浩氏からなされている．

福井市で空襲や戦争の資料を収集し展示する施設として、「郷土平和博物館」建設運動が始まったのが1992年7月である．1981年に故三上誠氏（画家）の旧アトリエ兼住居を借りて「ゆきのした館」として利用してきたが，福井駅周辺整備事業のため立ち退きとなり，1993年に福井市志比口の元織物工場に移転した．ここも1998年に立ち退きを要求され，1999年7月に福井市米松町の加藤忠夫会長（当時）宅庭先にプレハブ事務所，丸岡町（現坂井市）の元粟田細幅織物工場を「新ゆきのした平和文化資料館」として資料を移動した，ここが準備館として位置づけられ，2001年11月に「平和文化資料館ゆきのした」として公開されるようになった．2002年7月28日には空襲・戦災を記録する会全国連絡会議福井大会のフィールドワーク見学会場になった．しかし元織物工場の建物は老朽化が進み，補修が困難なのでやがて取り壊したいという家主の意向により，2018年7月からあわら市のJR芦原温泉駅に近い民家を借りて資料を移動させた．ところがここも2019年10月に北陸新幹線敦賀延伸に伴う道路拡張計画の対象となったので，JR芦原温泉駅から徒歩15分弱の民家を借りることになり，2021年春に移転した．

ゆきのした文化協会では空襲・戦争に関連した行事も行っている．1984年の7月19日福井空襲記念日に作業を始め，約1年をかけて全6景（縦2.4m，全長50m）の「福井空襲大絵図」を製作した．この絵図は福井県内各地の他，大阪・京都・岡山など県外でも展示されている．2017年7月15日には福井駅東口アオッサで「あのとき　戦争だった！　お話会」を開いた．

３．空襲を伝える敦賀市での取り組み

　1985年に刊行された「敦賀空襲・戦災史」で編集代表者の上田貞男氏はあとがきに，1972年7月12日に「港都つるがの空襲被災体験記」第1集が発刊され、同日に敦賀市本町の海光堂書店ビルで「敦賀空襲を語り聞くつどい」が開かれたと記している．同年8月10日から8月下旬まで海光堂書店ビルで「敦賀空襲展」を開き，千数百人の入場見学者があったと記している．

「敦賀空襲・戦災史」編集代表者の上田貞男氏は1972年8月12日に東京で開かれた「第2回空襲・戦災を記録する会全国連絡会議」に参加し，その後「敦賀空襲戦災資料保存会」を立ち上げて協力者を増やしたと述べている．

敦賀空襲から30年となる1975年7月18日から7月23日まで，平和堂敦賀店5階催事場で「敦賀大空襲展」を開催し，12,024人の入場があった．募金も総額53,350円が集まり，戦災慰霊碑建立のための基金として預金された．

敦賀市の空襲犠牲者の追悼は1945年8月12日に大国町（現在の神楽町2丁目）高徳寺で敦賀市主催戦災殉難者慰霊祭として225名が弔われたことに始まる．同年8月20日には東洋紡績敦賀工場・県立敦賀高等女学校・県立敦賀中学校の合同主催により松島町永建寺で東洋紡績敦賀工場で亡くなった37名と，敦賀中学校在学中に福井空襲で亡くなった1名を加えた計38名の合同葬が行われた．同年9月12日には永建寺で同寺主催により敦賀市戦災殉難者慰霊祭が行われている．

戦災一周年となる1946年7月12日に福井県・敦賀市・新生婦人会・仏経連合会の共催により永建寺で追悼会が行われた．1949年7月12日に敦賀市仏経連合会により気比神宮前広場で戦災殉難横死者追悼会が催された．この後長い間敦賀市全体の戦災犠牲者慰霊追悼行事は行われなかったが，戦後30年の1975年7月12日に敦賀市立体育館で戦死者・戦災犠牲者の合同追悼式が行われた．1978年7月12日には敦賀空襲戦災資料保存会主催で敦賀市元町の本勝寺で空襲33周年祈念慰霊大法要が行われた．1979年7月12日には敦賀戦災遺族会が発足し，本勝寺で慰霊法要が行われた．以後毎年7月12日に敦賀戦災遺族会により慰霊法要が本勝寺で行われるようになった．敦賀戦災遺族会としても募金活動をし，1975年敦賀大空襲展募金も寄付され，三十七回忌にあたる1981年7月12日に本勝寺境内に戦災慰霊碑が建立された．戦災慰霊碑の裏面には戦災犠牲者220人の氏名が列記されている，

敦賀戦災遺族会による本勝寺での慰霊法要は被災50周年の1995年まで行われていたが，遺族の高齢化により本勝寺のみで行われるようになっていた．戦災犠牲者の孫の世代の「敦賀市遺族次世代の会」により2019年からは本勝寺と共催の法要として7月12日に行われている．敦賀市役所の防災サイレンも午前10時に吹奏し，敦賀市立の小中学校では合わせて黙祷がなされた．2022年からは敦賀市役所が新庁舎に移転し，防災サイレンは鳴らされていない．

東洋紡績敦賀工場での慰霊祭は大型爆弾が投下された8月8日ないしその前後に，1984年までは東洋紡構内にあった寮で行われていた．1985年に位牌を永建寺に移し、以来永建設寺に東洋紡代表者が出向いて慰霊祭を行っている．空襲から50年となる1995年には、東洋紡体育館で慰霊祭が行われた．この位牌には1945年8月8日の大型爆弾（後に模擬原爆であったことが明らかになる）で亡くなった敦賀高等女学校引率教員2人・敦賀中学校生徒5人・敦賀高等女学校生徒11人・東洋紡績従業員（職員4人・工員11人），7月30日東洋紡績敦賀工場で艦載機攻撃により亡くなった4人，計37人の氏名が書かれていたが，東洋紡績敦賀工場で被災して戦後に亡くなった5人が追記され，合計42人の氏名が書かれている．慰霊祭では過去帳に書かれた42人の氏名が読まれている．

空襲・戦災に関する講演会や体験者の話は，郷土史の同好会である「気比史学会」でも行われている．気比史学会は1977年11月に創立し，1985年からは「敦賀市民歴史講座」として講演会を行なっている．1994年11月18日には，関西大学の小山仁示教授（当時）により，1945年8月8日に東洋紡績敦賀工場に投下された大型爆弾が模擬原爆であったことが講演されている．戦後50年特別企画として1995年7月30日には，「あれから50年・いま・敦賀空襲に学ぶ」という6人のパネリストによるトークが行われた．戦後60年の2005年には，「歴史を通して戦争と平和を考える」という市民歴史講座を開催し，7月23日に木戸聡による第三講「敦賀に投下された模擬原爆―敦賀空襲60周年－」が行われた．2015年には敦賀市民歴史講座「戦後70年―風化させてはならない，後世に伝えたいものとは―」という4回の講座が行われ，10月10日に福井県史で戦災について執筆した中島嘉文氏により「敦賀・福井空襲から70年―敦賀と戦争の記憶―」の講演があった．

戦後70年の市民歴史講座には別冊「気比史学」として講演記録集も作られた．気比史学会としては市民歴史講座以外にも2017年2月25日に「敦賀空襲を伝えるつどい」を開いている．また，敦賀市立博物館との共催で2017年8月19日に「戦争体験を聞く会」を開いている，

　1990年代から新日本婦人の会敦賀支部により「原爆パネル展」が敦賀市内で開催されている．2016年からは敦賀駅交流施設「オルパーク」のギャラリーで8月はじめの日曜日に原爆パネル展を開催している．2019年からは原爆パネル展に併設して敦賀空襲についても展示したいという依頼があり，国立国会図書館蔵のアメリカ国立公文書館に残されている米軍資料にある，作戦任務報告書や進駐軍撮影の写真などをA3判ラミネートパネルにして展示している．

４．福井駅前ハピテラスでの展示とつどい

(1)福井空襲を語り継ぐ展示とつどい

2019年には「戦争する国づくり反対！福井総がかりアクション」の呼びかけにより，ゆきのした文化協会，福井県平和センターなども加わった実行委員会形式で，福井駅前のオープンスペース「ハピテラス」で「福井空襲を語り継ぐ展示とつどい」が行われることになった．

福井空襲から74年目となる2019年7月19日に展示作業をし，福井空襲大絵図6景のうち，最も長い縦2.4m，横20mの「外記様町（げきさんちょう）」の場面を主に，投下された焼夷弾の燃え殻，空襲で亡くなった4才児の防空頭巾，犠牲者お名前帖などを展示した．

つどいでは稲木信夫氏が福井空襲で炎の中を逃げ回った体験の詩「まっかっかあや」を朗読，平和の歌のステージでは福井センター合唱団を中心に「いとしごよ」「折り鶴」などを演奏した．会場正面には「空襲犠牲者に憶いをはせる」と書かれた白い布の前に祭壇を設け，キャンドルローソクを模した小さなLEDや折り鶴を捧げた．

2020年には7月17日に福井駅前ハピテラスで前年と同様な展示物に加え，福井空襲大絵図の「福井城址のお堀に飛び込む人びと」「白山神社で被災した人びと」も展示された．

つどいでは，すし屋のおかみさんが制作した紙芝居や福井市郷土歴史博物館所蔵ビデオの上映，詩の朗読，平和の歌，犠牲者への黙祷，折鶴献納が行われた．

(2)福井と敦賀の空襲を語り継ぐ展示とつどい

　2021年には福井駅前ハピテラスでの展示とつどいに，敦賀空襲の内容も加えて「福井と敦賀の空襲を語り継ぐ展示とつどい」という名称の行事として行うようになった．

　7月17日の午後1時から展示作業にかかり，福井空襲の体験図画，福井空襲を伝える新聞記事，戦争への道への資料などが展示された。ゆきのした文化協会制作の「福井空襲大絵図」は会場の大型モニターに映し出された．敦賀からは敦賀駅前オルパークで展示していたA3判ラミネートパネルと共に，敦賀戦災の概要・機雷の被害・艦載機攻撃被災地・福井県内福井と敦賀以外の戦災などを同様なA3判ラミネートパネルとして追加した，また敦賀では2020年に作成した，模擬原爆パンプキン爆弾の実物大手書き図も展示した．

　空襲体験者のお話として、午後3時30分からと午後5時30分からの2回、福井氏の飛山敏男氏（空襲当時12才）と敦賀市の田代章子氏（空襲当時10才）が話された。田代氏は気比史学会役員として市民歴史講座や空襲体験を伝えるつどいを運営してきた人でもある．午後5時30分からのつどいでは平和の歌や折鶴献納もなされた．

　2022年には7月16日に前年と同様の展示が福井駅前ハピテラスで行われた．午後1時から展示作業にかかり，午後3時から開会のつどいとして前年の空襲体験者の話の録画が大型モニターに映し出された．午後5時からは閉会のつどいとして，合唱団の演奏，犠牲者への黙祷，折鶴献納がなされた．

2023年の実行委員会では，新たな企画について検討された．その中で，実行委員の3名がそれぞれに戦争体験の記録を持っていることがわかった．軍医の『陣中洋鑑』（日中戦争）と，輜重兵の『従軍日誌』（日中戦争），『予科練生の手帳』（1945年6，7月）である．実行委員会ではこれに『戦地への手紙』（戦地の嶋田嘉右衛門氏に宛てた両親・親戚・知人らの手紙をまとめたもの）を加え，それぞれから一部を抜粋して解説をつけ，『それぞれの戦争体験』（パワーポイント）にまとめることにした．また，4つの「軍隊手牒」が展示され，その解説もされることになった．

7月15日午後1時から展示作業にかかり，午後3時から合唱団の演奏など開会のつどいが行われた．午後4時30分から「それぞれの戦争体験」としてスライドの投影と朗読が行われ，福井空襲に関する紙芝居も上演された．午後5時30分から閉会のつどいとして，合唱団の演奏，犠牲者への黙祷，折鶴献納がなされた．

参考文献

1）．

2）．

3）．

　（2023年11月4日稿）